



よずみちゃん

季刊

弥生の出雲王に出会える



# 出雲弥生の森博物館だより

IZUMO YAYOINOMORI MUSEUM

第28号

(2018年1月)



★春季企画展

「ふるさと今昔物語」

その1ー佐田町ー

3月10日(土)～5月21日(月)

【入場無料】

現在の出雲市は、2市5町(出雲市、平田市、佐田町、多伎町、湖陵町、大社町及び斐川町)が合併して誕生しました。

これら合併前の市町単位で刻まれていたそれぞれのまちの特徴ある歴史をシリーズで紹介し、郷土の価値をあらためて見つめ直します。

シリーズ1回目は、佐田町を取り上げ、縄文時代から近代までの遺跡や出土品を中心に紹介します。佐田町は、出雲市の南西部に位置し、大田市・雲南市と接しています。面積の約8割を山林が占める中山間地帯です。1956(昭和31)年、飯石郡須佐村と簸川郡窪田村が合併して簸川郡佐田町となり、その後佐田町となりました。

この地域は、縄文時代から弥生時代・古墳時代にかけての遺跡のほか、出雲大社の宮材を提供したとする吉栗山があります。中世には高櫓城をはじめとする数多くの山城が築かれ、石見国との国境と

して重要な拠点でもありました。

近世から幕末にかけてはたたら製鉄が栄え、そのうちの朝日たたら跡(国史跡)



西から望む高櫓城跡遠景

では、高殿たたらへの地下構造を見学することができます。また、佐田町の郷土の偉人として、明治から大正期に活躍した画家石橋和訓の出生地でもあります。

今回の展示では、佐田町の通史をみることで、あらためてその魅力を探ります。

(安部百合子)

●関連講演会

「山城から探る佐田町の戦国時代」

3月18日(日) 14時～16時

【講師】高屋茂男氏

(鳥根県立八雲立つ風土記の丘)

学芸課長

- 会場 たいけん学習室
  - 受講料 無料
  - 定員 80名
- 事前申し込みが必要ですが、電話・ファックス等でお申込みください。

★ギャラリ―展

呪(まじな)う

―中近世の出雲人の祈り―

2月7日(水)～5月21日(月)

日々の暮らしの中、あるいは、個人の人生の中、人びとはさまざまな場面で「祈り」を捧げます。それは、今も昔も変わりません。

今回の展示では、戦国時代から江戸時代初めにかけての出雲の人びとの祈りが窺える品々について注目します。

この時代では、神仏習合の思想が人びとの生活に浸透し、修験道や陰陽道の信仰も病氣平癒や地鎮祭などの多様な祈りの場面で取り入れられました。

そのうち、「牛頭天王」に関わる信仰は茅の輪神事として現在の出雲に継承されています。一方で、姿を消し、形を変えた信仰もあります。

展示を通して、当時の出雲の人びとの精神文化の一端を考えたいと思います。

【主な展示品】

- 一字一石経(出雲大社境内遺跡)
- 木簡「南無牛頭天王」(築山遺跡)
- 輪宝墨書土器(鰐淵寺)

(高橋 周)

★発掘調査の現場から⑭

「弥生の集落から中国鏡発見！」

―白枝荒神遺跡の発掘調査―

市文化財課が実施した白枝荒神遺跡の発掘調査において、中国の後漢時代に製作された青銅鏡が出土しました。

調査は、出雲市白枝町地内の商業施設新築工事に伴い実施したもので、調査面積は約320㎡、調査期間は7月下旬から9月下旬にかけての約2か月間です。弥生時代の溝や土坑などの遺構も確認しました。



調査のようす（北から）

発見された中国鏡は5.3cm×1.8cmの破片で、意図的に割って祭祀などに使用された「破鏡」と考えられます。1世紀後半ごろ

に後漢で製作されたと思われる「内行花文鏡」の一部で、本来の直径は15cm前後です。中国鏡の発見は市内初、弥生時代の遺跡から出土した中国鏡としては県内でも初の貴重な発見です。

また、今回の調査では大陸製のガラス玉も出土しました。中国鏡の存在とともに、当時の白枝荒神遺跡が、大陸と北部九州と日本海沿岸を結ぶ重要な交易拠点の一つであったことを示すものではないでしょうか。



出土中国鏡（右）と推定される全形（左）  
※図は貞柏里19号墳出土鏡（縮尺不同）

★速報展

「出雲平野に眠る縄文の大集落 京田遺跡の発掘調査」

開催中（3月5日（月））

京田遺跡は神西湖の南側、出雲市湖陵町常楽寺に所在し、平成28年度に山陰自動車道の建設に関連して市文化財課が発掘調査を実施しました。今回の速報展ではその成果を展示しています。

京田遺跡の調査面積は約250㎡と広くはありませんが、竪穴建物跡など集落の様子が分かる遺構が見つかったほか、当初の予想をはるかに上回る量の遺物が出土しました。その数は土器片だけでも約2万5千点に上ります。またそのほとんどが三瓶山の最後の噴火があった縄文時代の後期中葉頃（約3千5百年前）のものであり、この時期にこの地域で大きな集落が存在していたことを示しています。

発掘調査で出土した土器の中には生活に使われたもののほか、西日本ではめったにお目にかかれない、珍しい土器が見つかりました。「異形台付土器」と呼ばれるこの土器は、関東地方において地域の拠点的な集落から主に出土してい

ます。しかし山陰地方を含め、西日本ではほとんど出土例がありません。器面は水銀朱で赤く彩られており、祭祀の場で使われるなど特別な用途を持っていたと思われるます。

また関東地方だけではなく、九州地方からもたらされた土器も出土しており、この集落が遠く離れた地域との交流を盛んに行っていた様子がうかがえます。

このように京田遺跡の発掘調査では、これまであまり分かっていなかった出雲平野の縄文時代の様子を具体的に示す貴重な成果となりました。

●ギャラリートーク

1月21日（日）10時～

【講師】幡中光輔（当館）  
ぜひご参加ください。



水銀朱で赤く彩られた異形台付土器

★日本遺産

日が沈む聖地出雲の文化財  
(第2回)

前号では、日本遺産「日が沈む聖地出雲」大社・稲佐の浜エリアの構成文化財を紹介しました。今回は、その南に広がる、『出雲国風土記』に記された「国引き神話」の登場地、菌の長浜エリアに焦点をあてます。



菌の長浜エリア

①菌の長浜

『出雲国風土記』は、出雲国の地理や地名の由来、神話などを記した奈良時代の書物です。「国引き神話」はその冒頭で語られます。

出雲国の狭さを心配した巨大な神・ヤツカミズオミツヌは、海に向こうに余った土地を見つけると、大きな鋤すきで大地を切り離して綱を掛け、「国来くにこ、国来くにこ」と引き寄せて、4つの土地をつなげます。



菌の長浜と佐比売山(奉納山から)

このうち最初に国引きされた「支豆支の御崎」が日御碕を含む北山の山塊に、綱が菌の長浜に、そして綱を結んだ杭が佐比売山(三瓶山)になったといえます。

出雲大社の西約1kmにある奉納山の展望台から南を眺めると、国引き神話の世界が眼前に浮かび上がってくるようです。

②長浜神社

菌の長浜の中ほどにある丘陵に鎮座する長浜神社は、『出雲国風土記』に出雲社、平安時代の『延喜式』に出雲神社の名で登場する古社です。

ご祭神は、「国引き神話」の主人公、ヤツカミズオミツヌ。現在

も、国引きの綱引きにちなんで、スポーツなど、勝負事の神として多くの崇敬を集めています。

③神戸川河口

出雲市を流れる二大河川のひとつ、神戸川は、長浜神社の北で日本海に向けて河口を開きます。

かつて、この内側には「神門水海」という内海が広がっており、弥生時代以来、各地の船が往来し人々が交流してきました。海の玄関口として賑わった河口には、今も美しい夕日が沈み、穏やかな風景が広がります。



神戸川河口の穏やかな夕日

次号から日御碕エリアを紹介いたします。お楽しみに。(景山このみ)

★出雲弥生の森公園

フレンドクラブ

平成29年度文化財愛護活動顕彰

出雲弥生の森公園フレンドクラブ(井上明男会長、会員数30名)は、平成17年に発足して以来、『育てよう出雲弥生の森』を合言葉に「出雲弥生の森」の美化活動に取り組みでこられました。この多年に渡る功績が高く評価され、島根県文化財愛護協会の文化財愛護活動顕彰を受章されました。

美化活動の様子

11月25日に、今年7回目の美化活動が行われました。当日は、ボランティア週間内ということもあり、島根県立大学の学生4名が参加し、和気あいあいとした雰囲気の中、花壇への花植えや公園の除草が行われました。



花植えの様子



ミーティングの様子

フレンドクラブの皆さん、史跡公園をいつも綺麗にしてくださいありがとうございます！

★博物館アテナントコーナー

こんにちは♪

博物館のアテナントです。

博物館では、市内で活動されている皆様の作品や成果を発表する場として「市民ギャラリー」を設けています。夏には「パステルアート」に取り組んでおられる皆さんの作品展示があり、この機会に合わせて初めて博物館においていただいたお客様もあまり嬉しく思いました。

博物館では「キャラクター探し」の景品にもなっている、折り紙で創る季節行事の小さなリースが大人気です。そこで、一年間創ってきたリースを今回市民ギャラリーで展示します。季節ごとのリースを楽しんでください。



折り紙で作ったリース

「よすみちゃん」と弥生の森の四季リースで飾る春夏秋冬」展示  
**3月21日(水)～4月9日(月)**  
 期間中、折り紙教室を開催します。詳しくは、博物館ホームページでお知らせします。

★講座のご案内

▼館長講座

1月13日(土)

「じぶりの飛鳥と

やくもたつ出雲 その二

【講師】花谷 浩(当館館長)

▼文化財保護審議会委員講座

「文化財のプロが

出雲の歴史を語る

2月3日(土)

「出雲市内の民具と暮らし」

【講師】浅沼政誌氏

(県教育庁文化財課企画幹)

2月24日(土)

「鷺銅山と石見銀山」

【講師】中村唯史氏

(県立三瓶自然館サヒメル学芸員)

3月10日(土)

「コウノトリに学ぶ出雲の自然」

【講師】佐藤仁志氏

(松江市文化財保護審議会委員)

右の講座はいずれも

- 時間 14時～16時
- 会場 たいけん学習室
- 受講料 300円
- 定員 80名

※事前にお申込みください。

★館長古采夢

「平成」は来年4月末までと決まりました。一年以上も前に改元が決まる事態は、千三百年間続いてきたわが国の元号の歴史でも初めてのことでしょう。

さて、「平成」の始まりはわたしの飛鳥での発掘開始でもありました。1989年、調査担当地域の配置換えがあったからでした。いろいろな遺跡調査を担当しましたが、思い入れが深いのは飛鳥寺(明日香村)です。

飛鳥に王宮が営まれた時代は、592年、推古女帝の即位に始まり、710年の平城京遷都までです。推古即位の直前の588年、蘇我馬子はわが国初の仏教伽藍、飛鳥寺の建設を開始していました。この寺は、馬子から蝦夷、入鹿と続く蘇我氏本家の寺でしたが、その蘇我氏本家が滅亡した「大化の改新」でも重要な舞台となりました。時に645年、古い支配体制に終止符を打つ大事件でした。改新の前年、中大兄皇子に近づきつけを探っていた藤原鎌足は、飛鳥寺で催された蹴鞠の会に参加しました。すると、たまたま脱げて飛んだ中大兄のクツが鎌足の元に。それを差し出したおかげで二人の親交が結ばれた、と『日本書紀』は伝えていきます。大化の改新は、中大兄らが王宮内で蘇我入鹿を切りつけたことで、幕が切って落とされました。その後、中大兄と鎌足たちは飛鳥寺にこもり、蝦夷が自害するや、新しい政策の実現にまい進した、といえます。

ちなみに、蘇我入鹿が倒されたのは旧暦6月12日、干支は戊申の日でした。今年7月で戊申にあたるのは15日ですが、その日は、サッカーW杯ロシア大会決勝の日。蹴鞠を端緒に始動した大化の改新、その因縁で日本が決勝の舞台に立っている、としたら。正夢になって欲しいなあ。(花谷 浩)

(発行) 出雲弥生の森博物館

2018年1月

〒693-0011  
 島根県出雲市大津町2760  
 (TEL) 0853-25-1841  
 (FAX) 0853-21-6617  
 (E-mail) yayoi@city.izumo.shimane.jp  
 http://www.city.izumo.shimane.jp/yayoinomori

- 入館料 / 無料
- 開館時間 / 9:00～17:00  
 (入館は16:30まで)
- 休館日 / 火曜日  
 (祝日の場合は翌平日)  
 年末年始

